

災害用トイレ 使ったことありますか？

災害が起こるたびに、被災地は深刻なトイレ問題に直面して

きました。能登半島地震でも陸路の寸断や断水・停電の長期化によってトイレが使えない状況が長引き、避難所などの衛生面の悪化が深刻化しました。トイレに行く回数を減らすと水分や食事を控えたりすると健康被害にも影響を及ぼします。

ある避難所では、多くの避難者が災害用トイレの使い方が分からないまま用を足し、汚れて使えなくなった個室が目立ったこともあったそうです。普段の生活では被災地のトイレ事情を目にする機会が少なく、災害用トイレの使い方知らない、実際に使ったことがない方も多いと思います。

いざというときにスムーズに使えるように、災害用トイレの使い方を紹介します。いくつかの種類があるため、自宅で備蓄しているものを一度試しておく、心のハードルが下がるのでおすすめです。

1

便座を上げて、災害用トイレとは別に、大きめのポリ袋をかぶせます。便器の底にたまった水で災害用トイレをぬらさないためです。このポリ袋は1回ごとに取り替える必要はありません。



災害用トイレの中身



(左から) 処理袋、排便袋、凝固剤

3

用を足した後、凝固剤を排便袋の中に振り入れます。大便のみの場合は固まりやすいように少量の水も入れてください。



2

便座を下ろしてその上から排便袋をかぶせます。袋が下に落ちないように便座と便器の隙間に挟みこみます。



5

排便袋を処理袋に入れて二重にし、可燃ごみとして処理します。



4

固まった後に便座に取り付けていた排便袋を外して、中の空気を抜き、口をしっかりと縛ります。

